

研究所だより

複眼的思考の大切さ

「サステナブル・エネルギー特集」も、今回で3号目となりました。

本号では、様々な議論を呼んでいます。「コンビニエンスストアの温暖化対策」について、日ごろから高い関心をもっておられる有識者による座談会を開催することができました。

米国生まれのこの業態も、74年に日本で第一号店が開店して以来、我が国独自のスタイルで大きな発展を遂げてきました。座談会をやってみて改めて分かったことは、その機能が既に商品の24時間提供に留まらなくなってきていることです。

防犯や震災時における物資提供機能以外にも、地場産業と連携したご当地商品の開発を通じて、地産地消や地域振興に一役買うような事例もあることがわかりました。

温暖化問題の象徴のように見られてしまうこともあるコンビニエンスストアですが、別の角度から見ることでその評価も大きく変わります。

「物事を一方的な見方で評価しない」

このことは、常に複眼的な思考で物事を見ることが要求される、我々の仕事と共通する点でもあります。

二酸化炭素-CO₂という悪役に向かって、国全体が動き出そうとしている今だからこそ、時に立ち止まり別の角度からこれを冷静に眺めてみるということが、エネルギー環境系のコンサルタントとしての使命なのかもしれません。

いろんな角度から物事を冷静に見つめ、小さいながらも社会に有益な存在であり続けたい。

これからも、弊社エネルギー環境部門へのご支援をよろしくお願いいたします。

なお、本号の発行にあたっては、多方面に渡る皆様のご指導とご協力を頂きました。ここに改めて厚く御礼を申し上げます。

加納